

○四街道市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例

平成14年2月12日

条例第1号

改正 平成20年6月25日条例第21号

平成24年3月30日条例第1号

平成25年3月28日条例第16号

(目的)

第1条 この条例は、市内における土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生を未然に防止するため、必要な規制を行うことにより、住民の生活の安全を確保し、もって住民の生活環境を保全することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 土砂等の埋立て等 土砂等（廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第2条第1項に規定する廃棄物以外のもので、土地の埋立て、盛土及びたい積行為の用に供するものをいう。以下同じ。）による土地の埋立て、盛土その他の土地への土砂等のたい積（製品の製造又は加工のための原材料のたい積を除く。）を行う行為をいう。
- (2) 特定事業 土砂等の埋立て等に供する区域（宅地造成その他事業の工程の一部において土砂等の埋立て等が行われる場合であって、当該事業を行う区域から発生し、又は採取された土砂等を当該事業のために利用するものであるときにあっては、当該事業を行う区域）以外の場所から発生し、又は採取された土砂等による土砂等の埋立て等を行う事業であって、土砂等の埋立て等に供する区域の面積が500平方メートル以上であるもの（500平方メートルに満たない事業であっても、その区域に隣接する土地において、当該事業を行う日前3年以内に事業が行われ、又は行っている場合においては、当該事業の事業区域と既に行われ、又は行っている事業の事業区域の面積を合算して500平方メートル以上になるとき（当該事業の事業区域の土地の所有者若しくは土砂等の埋立て等を行う者又はその両方が同一の者である場合に限る。）を含む。）をいう。

(平20条例21・一部改正)

(事業者の責務)

第3条 事業者は、その事業活動において、土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生を未然に防止する責務を有する。

2 事業者は、当該事業の施工に係る苦情又は紛争が生じたときは、誠意をもって解決に当たらなければならない。

3 建設工事、しゅんせつ工事その他の事業を行う者は、その事業活動に伴い副次的に得られる土砂等の減量化を図るとともに、当該土砂等の製品化その他の有効利用に努めなければならない。

4 土砂等を運搬する事業を行う者は、土砂等の埋立て等に使用される土砂等を運搬しようとするときは、当該土砂等の汚染状況を確認し、土砂等の埋立て等による土壌の汚染が発生するおそれのある土砂等を運搬することのないよう努めなければならない。

5 事業者（特定事業を行う者に限る。）は、土砂等の埋立て等に供する区域の規則で定める周辺関係者に対し、当該事業の内容について事前に説明し、理解を得るよう努めなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(土地所有者の責務)

第4条 土地の所有者は、土砂等の埋立て等を行う者に対して土地を提供しようとするときは、主体的に当該土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害が発生するおそれのないことを確認し、これらのおそれのある土砂等の埋立て等を行う者に対して当該土地を提供することのないよう努めなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(市の責務)

第5条 市は、土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生を未然に防止するため、土砂等の埋立て等の把握、監視及び住民からの苦情の処理その他必要な措置を講ずるものとする。

(土砂等の埋立て等に使用される土砂等の安全基準)

第6条 土砂等の埋立て等に使用される土砂等の安全基準（以下「安全基準」とい

う。)は、環境基本法(平成5年法律第91号)第16条第1項に規定する土壌の汚染に係る環境基準に準じて、規則で定める。

(平20条例21・一部改正)

(安全基準に適合しない土砂等による土砂等の埋立て等の禁止等)

第7条 何人も、安全基準に適合しない土砂等を使用して、土砂等の埋立て等を行ってはならない。

2 市長は、土砂等の埋立て等に安全基準に適合しない土砂等が使用されているおそれがあると認めるときは、当該土砂等の埋立て等を行っている者に対し、直ちに当該土砂等の埋立て等を停止し、又は現状を保全するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

3 市長は、土砂等の埋立て等に安全基準に適合しない土砂等が使用されていることを確認したときは、速やかに当該土砂等及び当該土砂等の埋立て等が行われ、又は行われた場所の土壌に係る情報を地域住民に提供するとともに、当該土砂等の埋立て等を行い、又は行った者に対し、当該土砂等の埋立て等に使用された土砂等(当該土砂等により安全基準に適合しないこととなった土砂等を含む。)の全部若しくは一部を撤去し、又は当該土砂等の埋立て等による土壌の汚染を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

(土砂等の埋立て等による崩落等の防止措置等)

第8条 土砂等の埋立て等を行う者は、当該土砂等の埋立て等に使用された土砂等が崩落し、飛散し、又は流出しないように必要な措置を講じなければならない。

2 市長は、土砂等の埋立て等に使用された土砂等が崩落し、飛散し、若しくは流出し、又はこれらのおそれがあると認めるときは、必要に応じ、当該土砂等の埋立て等を行い、又は行った者に対し、これらを防止するために必要な措置を講ずるよう指導するものとする。

(特定事業の許可)

第9条 特定事業を行おうとする者は、特定事業に供する区域(以下「特定事業区域」という。)ごとに、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。ただし、当該特定事業が次に掲げる事業である場合にあっては、この限りでない。

(1) 国、地方公共団体その他規則で定める公共的団体が行う事業(以下「公共事

業」という。)

- (2) 採石法（昭和25年法律第291号）、砂利採取法（昭和43年法律第74号）、千葉県土採取条例（昭和49年千葉県条例第1号）その他の法令及び条例（以下「法令等」という。）に基づき許認可等（許可、認可、免許その他の自己に対し何らかの利益を付与する処分をいう。以下同じ。）がなされた採取場から採取された土砂等を販売するために一時的に土砂等のたい積を行う事業

- (3) 前2号に掲げるもののほか、規則で定める事業

（平20条例21・一部改正）

（特定事業に係る土地所有者等の同意等）

第9条の2 前条の許可の申請をしようとする者は、あらかじめ規則で定めるところにより、当該申請に係る特定事業区域内の土地の所有者に対し、当該申請が、第10条第1項の規定によるものである場合にあっては同項第1号から第10号までに掲げる事項を、同条第2項の規定によるものである場合にあっては同項第1号から第6号までに掲げる事項を説明し、その同意を得なければならない。

2 前項に定めるもののほか、前条の許可の申請をしようとする者は、あらかじめ規則で定めるところにより、当該申請に係る特定事業区域内の土地につき当該特定事業の施工の妨げとなる権利を有する者（同項に規定する土地の所有者を除く。）の同意並びに当該特定事業区域に隣接する土地の所有者及び近隣の住民に当該特定事業について説明し、その承諾を得なければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、規則で定める場合については、この限りでない。

（平20条例21・追加）

（事前協議）

第9条の3 第9条又は第12条第1項の許可の申請をしようとする者は、あらかじめ規則で定めるところにより、特定事業の計画について市長と協議しなければならない。

（平20条例21・追加）

（許可の申請）

第10条 第9条の許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書に第9条の2第1項及び第2項に規定する同意及び承諾を得たことを証する書面、特定

事業区域及びその周辺の状況を示す図面その他の規則で定める書類及び図面を添付して市長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所（法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (2) 特定事業区域の位置及び面積
- (3) 現場責任者の氏名及び職名。ただし、特定事業区域の面積が3,000平方メートル以上の場合にあっては、現場事務所（土砂等の搬入（次項に規定する一時たい積特定事業である場合にあっては、搬入及び搬出）を管理するための事務所をいう。以下同じ。）その他特定事業に供する施設の設置計画及び位置並びに当該現場事務所に置く現場責任者の氏名及び職名
- (4) 特定事業区域の表土の地質の状況
- (5) 特定事業に使用される土砂等の量
- (6) 特定事業の期間
- (7) 特定事業が完了した場合の特定事業区域の構造
- (8) 特定事業に使用される土砂等の搬入計画に関する事項
- (9) 特定事業が施工されている間において、特定事業区域以外の地域への排水の水質検査を行うために必要な措置
- (10) 特定事業が施工されている間において、特定事業区域以外の地域への当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置
- (11) 前各号に定めるもののほか、規則で定める事項

2 前項の規定にかかわらず、第9条の許可を受けようとする特定事業が他の場所への搬出を目的として土砂等のたい積を行う特定事業（以下「一時たい積特定事業」という。）である場合にあっては、当該許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書に第9条の2第1項及び第2項に規定する同意及び承諾を得たことを証する書面、特定事業区域及びその周辺の状況を示す図面その他の規則で定める書類及び図面を添付して市長に提出しなければならない。

- (1) 前項第1号から第3号までに掲げる事項
- (2) 特定事業区域の表土の地質の状況（当該表土と特定事業に使用される土砂等が

遮断される構造である場合にあっては、その構造)

- (3) 年間の特定事業に使用される土砂等の搬入及び搬出の予定量
- (4) 特定事業に供する施設及び土砂等のたい積の構造
- (5) 特定事業に供する施設及び特定事業区域（以下「特定事業場」という。）の区域以外の地域への排水の水質検査を行うために設置する施設の構造
- (6) 特定事業に使用される土砂等について、当該土砂等が発生し、又は採取された場所（以下「発生場所」という。）ごとに当該土砂等を区分するために必要な措置
- (7) 前各号に定めるもののほか、規則で定める事項

（平20条例21・一部改正）

（申請の制限）

第10条の2 第9条の許可を受けようとする者は、特定事業の期間について1年を超えて申請することができない。

- 2 前項に定めるもののほか、第9条の許可を受けようとする者は、第7条第2項若しくは第3項、第22条又は第24条の規定により命令を受けた者である場合であって、必要な措置を完了していないときは、当該許可の申請をすることができない。

（平20条例21・追加）

（許可の基準）

第11条 市長は、第9条の許可の申請が第10条第1項の規定によるものである場合にあっては、当該申請が次に掲げる事項に適合していると認めるときでなければ、第9条の許可をしてはならない。

- (1) 申請者が次のアからケまでのいずれにも該当しないこと。

ア 第7条第2項若しくは第3項、第22条又は第24条の規定により命令を受け、必要な措置を完了していない者

イ 第23条第1項の規定により許可を取り消され、その取消の日から3年を経過しない者（当該許可を取り消された者が法人である場合においては、当該取消しの処分に係る四街道市行政手続条例（平成9年条例第1号）第15条の規定による通知があった日前60日以内に当該法人の役員（業務を執行する社

員、取締役又はこれらに準ずる者をいい、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、法人に対し業務を執行する社員、取締役又はこれらに準ずる者と同様以上の支配力を有するものと認められるものを含む。以下同じ。) であつた者で当該取消の日から3年を経過しないものを含む。)。ただし、申請者が第23条第1項第3号又は第9号に該当することにより当該許可を取り消された者である場合は、この限りでない。

ウ 第23条第1項の規定により特定事業の停止を命ぜられ、その停止の期間が経過しない者

エ 特定事業の施工に関し不正又は不誠実な行為をするおそれがあると認めるに足りる相当の理由がある者

オ 四街道市暴力団排除条例(平成24年条例第2号)第2条第3号に規定する暴力団員等(以下「暴力団員等」という。)

カ 営業に関し成年者と同一の行為能力を有しない未成年者でその法定代理人(法定代理人が法人である場合においては、その役員を含む。)がアからオまでのいずれかに該当するもの

キ 法人でその役員又は規則で定める使用人のうちにアからオまでのいずれかに該当する者のあるもの

ク 個人で規則で定める使用人のうちにアからオまでのいずれかに該当する者のあるもの

ケ 暴力団員等がその事業活動を支配する者

- (2) 第9条の2第1項及び第2項に規定する同意及び承諾を得ていること。
- (3) 特定事業が1年以内に完了するものであること。
- (4) 現場責任者を置くこと。ただし、特定事業区域の面積が3,000平方メートル以上の場合にあつては、現場事務所を設置し、かつ、当該現場事務所に現場責任者を置くこと。
- (5) 特定事業区域の表土が安全基準に適合する土砂等であること。
- (6) 特定事業が完了した場合において、当該特定事業に使用された土砂等のたい積の構造が、特定事業区域以外の地域への当該土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生のおそれがないものとして規則で定める構造上の基準に適合するもの

であること。

- (7) 第10条第1項第8号に規定する搬入計画における特定事業に使用される土砂等の発生場所が特定していること。
- (8) 第10条第1項第8号に規定する搬入計画において、許可を受けた日から2月以内に土砂等の埋立て等に着手する計画となっていること。
- (9) 特定事業が施工されている間において、特定事業区域以外の地域への当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置が図られていること。
- (10) 特定事業が施工されている間において、特定事業区域以外の地域への排水の水質検査を行うために必要な措置が図られていること。

2 市長は、第9条の許可の申請が第10条第2項の規定によるものである場合にあっては、当該申請が前項第1号から第4号まで及び次に掲げる事項に適合していると認めるときでなければ、第9条の許可をしてはならない。

- (1) 特定事業区域の表土が安全基準に適合する土砂等であること。ただし、当該表土と特定事業に使用される土砂等が遮断され、土壌の汚染が防止されていると認められる場合にあっては、この限りでない。
- (2) 特定事業場の構造が、当該特定事業場の区域以外の地域への特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生のおそれがないものとして規則で定める構造上の基準に適合するものであること。
- (3) 特定事業場の区域以外の地域への排水の水質検査を行うための施設が設置されていること。
- (4) 特定事業に使用される土砂等について、当該土砂等の発生場所ごとに当該土砂等を区分するために必要な措置が図られていること。

3 第9条の許可の申請が、法令等に基づく許認可等を要する行為に係るものであって、当該行為について、当該法令等により土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置が図られているものとして規則で定めるものである場合にあっては、第1項第6号及び第9号並びに前項第2号の規定は、適用しない。

(平20条例21・平25条例16・一部改正)

(変更の許可等)

第12条 第9条の許可を受けた者は、第10条第1項各号又は第2項各号に掲げる事項の変更(規則で定める軽微な変更を除く。)をしようとするときは、市長の許可を受けなければならない。この場合においては、第9条の2の規定を準用する。

2 第9条の許可を受けた者が第7条第2項若しくは第3項、第22条又は第24条の規定による命令に従って、当該許可に係る第10条第1項各号又は第2項各号に掲げる事項を変更しようとする場合は、前項の規定は適用しない。

3 第1項の許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書に同項において準用する第9条の2第1項及び第2項に規定する同意及び承諾を得たことを証する書面その他規則で定める書類及び図面を添付して市長に提出しなければならない。

(1) 申請者の氏名及び住所(法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)

(2) 変更の内容及びその理由

(3) 前各号に定めるもののほか、規則で定める事項

4 第1項の許可を受けようとする者は、第9条の許可に係る特定事業の期間を変更する場合にあっては、当該許可に係る特定事業の期間が満了する日から起算して3月を超えて申請することができない。

5 第1項の許可を受けようとする者は、第9条の許可に係る特定事業区域の面積を変更する場合にあっては、新たに特定事業区域となる区域の面積について、当該許可に係る特定事業区域の面積の10分の2を超えて申請することができない。

6 第1項の許可を受けようとする者は、第7条第2項若しくは第3項、第22条又は第24条の規定により命令を受けた者である場合であって、必要な措置を完了していないときは、当該許可の申請をすることができない。

7 第1項の許可の基準については、前条の規定を準用する。

8 第9条の許可を受けた者は、第1項の規則で定める軽微な変更をしたときは、変更した日から起算して10日以内に、その旨を市長に届け出るとともに、第9条の2第1項(第1項及び第20条の3第1項において準用する場合を含む。)の同意をした土地の所有者に通知しなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(許可の条件)

第13条 第9条の許可(前条第1項及び第20条の3第1項の許可を含む。以下第14条から第25条までにおいて同じ。)には、次に掲げる条件を付することができる。この場合において、その条件は、当該第9条の許可を受けた者に不当な義務を課するものであってはならない。

(1) 特定事業区域の表土その他の土砂(第9条の許可が一時たい積特定事業に係るものである場合にあつては、当該一時たい積特定事業に使用される土砂等を除く。)を当該特定事業区域以外の地域へ搬出しないこと。

(2) その他市長が必要と認める事項

(平20条例21・一部改正)

(名義貸しの禁止)

第13条の2 第9条の許可を受けた者は、自己の名義をもって、自己以外の者に当該許可に係る特定事業を行わせてはならない。

(平20条例21・追加)

(特定事業の着手の届出)

第13条の3 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る土砂等の埋立て等に着手したときは、着手した日から起算して10日以内に、その旨を市長に届け出なければならない。

(平20条例21・追加)

(土砂等の搬入の届出)

第14条 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業区域に土砂等を搬入しようとするときは、当該土砂等の発生場所ごとに、当該土砂等が当該発生場所から発生し、又は採取された土砂等であることを証するために必要な書面で規則で定めるもの及び当該土砂等が安全基準に適合していることを証するために必要な書面で規則で定めるものを添付して市長に届け出なければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合にあつては、当該土砂等が安全基準に適合していることを証するために必要な書面で規則で定めるものの添付は、これを省略することができる。

- (1) 当該土砂等が、公共事業により発生し、又は採取された土砂等である場合であって、安全基準に適合していることについて事前に市長の承認を受けたものであるとき。
- (2) 当該土砂等が、採石法、砂利採取法、千葉県土採取条例その他の法令等に基づき許認可等がなされた土砂等の採取場から採取された土砂等である場合であって、当該採取場から採取された土砂等であることを証するために必要な書面で規則で定めるものが添付されたとき。
- (3) 当該土砂等が、他の場所への搬出を目的として土砂等のたい積（次条において「一時的たい積」という。）を行う場所（当該場所において土砂等の発生場所が明確に区分されているものに限る。）から発生し、又は採取された土砂等である場合であって、当該発生場所から発生し、又は採取されたことを証するために必要な書面で規則で定めるもの及び安全基準に適合していることを証するために必要な書面で規則で定めるものが添付されたとき。
- (4) その他当該土砂等について、市長が土壌の汚染のおそれがないと認めた場合
(平20条例21・一部改正)
(土砂等管理台帳の作成等)

第15条 第9条の許可（当該許可が一時たい積特定事業に係るものである場合を除く。）を受けた者は、当該許可に係る特定事業に使用された土砂等について、発生場所ごとに、次に掲げる事項を記載した土砂等管理台帳を作成し、1年ごとに閉鎖しなければならない。

- (1) 当該許可に係る特定事業区域に搬入された土砂等の発生場所からの運搬手段
- (2) 当該許可に係る特定事業区域に搬入された土砂等がその過程において一時的たい積が行われたものである場合は、当該一時的たい積が行われた場所（当該場所において土砂等の発生場所が明確に区分されているものに限る。）
- (3) 当該許可に係る特定事業区域に搬入された土砂等の1日当たりの量
- (4) 前3号に定めるもののほか、規則で定める事項

2 第9条の許可（当該許可が一時たい積特定事業に係るものである場合に限る。）を受けた者は、当該許可に係る特定事業に使用された土砂等について、発生場所ごとに、次に掲げる事項を記載した土砂等管理台帳を作成し、1年ごとに閉鎖しな

ればならない。

(1) 前項第1号から第3号までに掲げる事項

(2) 当該許可に係る特定事業区域から搬出された土砂等の1日当たりの量及び搬出先ごとの内訳

(3) 前2号に定めるもののほか、規則で定める事項

3 第9条の許可を受けた者は、規則で定めるところにより、定期的に、前2項の規定により作成する土砂等管理台帳の写しを添付して、当該許可に係る特定事業に使用された土砂等の量等を市長に報告しなければならない。

(平20条例21・全改)

(地質検査等の報告)

第16条 第9条の許可を受けた者は、規則で定めるところにより、定期的に、当該許可に係る特定事業区域の土壌についての地質検査及び当該特定事業区域（当該許可に係る特定事業が一時たい積特定事業である場合にあっては、当該一時たい積特定事業の特定事業場の区域）以外の地域への排水の水質検査を行い、その結果を市長に報告しなければならない。

2 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業区域の土壌中に安全基準に適合しない土砂等があることを確認したときは、直ちに、市長にその旨を報告しなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(関係書類等の縦覧)

第17条 第9条の許可を受けた者は、市長が指定する場所において、当該許可に係る特定事業が施工されている間、当該特定事業に関しこの条例の規定により市長に提出した書類及び図面の写し並びに第15条に規定する土砂等管理台帳を近隣の住民その他当該特定事業について利害関係を有する者の縦覧に供しなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(標識の掲示等)

第18条 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業場の公衆の見やすい場所に、当該許可に係る特定事業が施工されている間、氏名又は名称、現場責任者の氏名及び職名その他規則で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。

2 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業区域と当該特定事業区域以外の地域との境界にその境界を明らかにする表示を行わなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(特定事業の廃止等)

第19条 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業の廃止をし、又は中止をしようとするときは、あらかじめ当該特定事業による土壌の汚染及び当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置に係る工程その他規則で定める事項を市長に届け出るとともに、当該工程に基づいて当該措置を講じた上で、当該特定事業の廃止をし、又は中止をしなければならない。ただし、当該特定事業の中止をしようとする場合であつて、当該中止をしようとする期間が2月未満であるときは、届け出を要しない。

2 市長は、前項の規定による届出があつたときは、速やかに、当該届出の内容が当該特定事業の廃止又は中止に支障がないかどうかの確認を行うとともに、必要に応じて現地調査を行うものとする。

3 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業の廃止をしたときは、廃止した日から起算して10日以内に、その旨を市長に届け出なければならない。

4 前項の規定による届出があつたときは、第9条の許可は、その効力を失う。

5 市長は、第3項の規定による届出があつたときは、速やかに、当該特定事業について、第1項の措置が講じられているかどうかの確認を行い、その結果を当該届出をした者に通知しなければならない。

6 前項の規定により、特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置が講じられていない旨の通知を受けた者は、第3項の規定による届出に係る特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講じなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(特定事業の完了等)

第20条 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業が完了する2月前の日までに、当該特定事業が完了するまでの工程その他規則で定める事項を市長に届け

出なければならない。

- 2 市長は、前項の規定による届出があったときは、速やかに、当該届出の内容が当該特定事業の完了に支障がないかどうかの確認を行うとともに、必要に応じて現地調査を行うものとする。
- 3 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業を完了したときは、完了した日から起算して10日以内に、その旨を市長に届け出なければならない。
- 4 市長は、前項の規定による届出があったときは、速やかに、当該届出に係る特定事業による土壌の汚染がないかどうか及び当該届出に係る特定事業区域が第9条の許可の内容に適合しているかどうかの確認を行い、その結果を当該届出をした者に通知しなければならない。
- 5 前項の規定により、特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置が講じられていない旨の通知を受けた者は、第3項の規定による届出に係る特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講じなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(特定事業の終了等)

- 第20条の2 第9条の許可を受けた者は、当該許可に係る特定事業の期間が満了する日までに当該特定事業が完了する見込みがないときは、同日の2月前の日までに、当該特定事業による土壌の汚染及び当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置に係る工程その他規則で定める事項を市長に届け出るとともに、当該工程に基づいて当該措置を講じた上で、当該特定事業の期間が満了する日までに当該特定事業を終了しなければならない。
- 2 市長は、前項の規定による届出があったときは、速やかに、当該届出の内容が当該特定事業の終了に支障がないかどうかの確認を行うとともに、現地調査を行うものとする。
 - 3 第9条の許可を受けた者は、第1項の規定により当該許可に係る特定事業を終了したときは、終了した日から起算して10日以内に、その旨を市長に届け出なければならない。

- 4 市長は、前項の規定による届出があったときは、速やかに、当該特定事業について、第1項の措置が講じられているかどうかの確認を行い、その結果を当該届出をした者に通知しなければならない。
- 5 前項の規定により、特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置が講じられていない旨の通知を受けた者は、第3項の規定による届出に係る特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講じなければならない。

(平20条例21・追加)

(譲受け)

第20条の3 第9条の許可を受けた者から当該許可に係る特定事業の全部を譲り受けようとする者は、市長の許可を受けなければならない。この場合においては、第9条の2第1項及び第2項の規定を準用する。

- 2 前項の許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書に同項において準用する第9条の2第1項及び第2項に規定する同意及び承諾（近隣の住民の承諾を除く。）を得たことを証する書面その他規則で定める書類を添付して市長に提出しなければならない。
 - (1) 申請者の氏名及び住所（法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - (2) 譲受けの相手方の氏名及び住所（法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - (3) 申請者が第11条第1項第1号カに規定する未成年者である場合には、その法定代理人の氏名及び住所（法定代理人が法人である場合にあっては、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - (4) 前3号に定めるもののほか、規則で定める事項
- 3 第1項の許可を受けようとする者は、第7条第2項若しくは第3項、第22条又は第24条の規定により命令を受けた者である場合であって、必要な措置を完了していないときは、当該許可の申請をすることができない。
- 4 第1項の許可の基準については、第11条の規定（第1項第1号及び第2号に係

る部分に限る。)を準用する。

- 5 第1項の許可を受けて特定事業を譲り受けた者は、当該特定事業に係る第9条の許可を受けた者のこの条例の規定による地位を承継する。

(平20条例21・追加、平24条例1・平25条例16・一部改正)

(相続等)

第21条 第9条の許可を受けた者について相続、合併又は分割(当該許可に係る特定事業の全部を承継させるものに限る。)があったときは、相続人(相続人が2人以上ある場合において、その全員の同意により承継すべき相続人を選定したときは、その者)、合併後存続する法人若しくは合併により設立した法人又は分割により当該許可に係る特定事業の全部を承継した法人は、当該許可を受けた者のこの条例の規定による地位を承継する。

- 2 前項の規定により第9条の許可を受けた者の地位を承継した者は、承継した日から起算して10日以内に、その事実を証する書面を添付して、その旨を市長に届け出るとともに、第9条の2第1項(第12条第1項及び前条第1項において準用する場合を含む。)の同意をした土地の所有者に通知しなければならない。

(平20条例21・一部改正)

(措置命令)

第22条 市長は、特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するため緊急の必要があると認めるときは、当該特定事業を行う第9条の許可を受けた者(第12条第1項の規定により許可を受けなければならない事項を同項の許可を受けないで変更した者を除く。)に対し、当該特定事業を停止し、又は当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

- 2 市長は、第9条又は第12条第1項の規定に違反して特定事業を行った者に対し、当該特定事業に使用された土砂等の全部若しくは一部を撤去し、又は当該特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

(平20条例21・一部改正)

(許可の取消し等)

第23条 市長は、第9条の許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、当該許可を取り消し、又は6月以内の期間を定めて当該許可に係る特定事業の停止を命ずることができる。

- (1) 第7条第2項又は第3項の規定による命令に違反したとき。
- (2) 不正の手段により第9条、第12条第1項又は第20条の3第1項の許可を受けたとき。
- (3) 第9条の許可に係る土砂等の埋立て等を引き続き6月以上行っていないとき。
- (4) 第11条第1項第1号オ若しくはケに該当するに至ったとき又は第9条の許可を受けた当時第11条第1項第1号オ若しくはケに該当していたことが判明したとき。
- (5) 第11条第1項第1号カからクまで（同号オに係るものに限る。）のいずれかに該当するに至ったとき又は第9条の許可を受けた当時第11条第1項第1号カからクまで（同号オに係るものに限る。）のいずれかに該当していたことが判明したとき。
- (6) 第12条第1項の規定により許可を受けなければならない事項を同項の許可を受けないで変更したとき。
- (7) 第13条の条件に違反したとき。
- (8) 第14条から第18条までの規定に違反したとき。
- (9) 第21条第1項の規定により第9条の許可を受けた者の地位を承継した者が当該地位を承継した際、第11条第1項第1号アからケまでのいずれかに該当するとき。
- (10) 前条第1項又は第2項の規定による命令に違反したとき。

2 前項の規定により第9条の許可の取消しを受けた者（当該取消しに係る特定事業について前条第1項又は第2項の規定による命令を受けた者を除く。）は、当該取消しに係る特定事業による土壌の汚染又は特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講じなければならない。

（平20条例21・平25条例16・一部改正）

（廃止、完了、終了又は取消しに伴う義務違反に対する措置命令）

第24条 市長は、第19条第6項、第20条第5項、第20条の2第5項又は前条第2項の規定に違反した者に対し、その特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

2 市長は、第19条第6項、第20条第5項、第20条の2第5項又は前条第2項の規定に違反した者が行った特定事業により、当該特定事業区域の土壌が汚染され、又は汚染のおそれがあると認めるときは、直ちに、当該特定事業を行った者に対し、当該区域について現状を保全するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

(平20条例21・一部改正)

(関係書類等の保存)

第25条 第9条の許可を受けた者は、当該特定事業について第19条第3項の規定による廃止の届出、第20条第3項の規定による完了の届出若しくは第20条の2第3項の規定による終了の届出をした日又は第23条第1項の規定による第9条の許可の取消しの通知を受けた日から5年間、当該特定事業に関しこの条例の規定により市長に提出した書類及び図面の写しを保存しなければならない。

2 前項の書類及び図面の写しについては、これらに記載すべき事項を記録した電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものとして規則で定めるものをいう。第4項において同じ。）の保存をもって、当該書類及び図面の写しの保存に代えることができる。この場合における前項及び第32条第3号の規定の適用については、当該電磁的記録は、当該書類及び図面の写しとみなす。

3 第9条の許可を受けた者は、第15条に規定する土砂等管理台帳を同条第1項又は第2項の規定による閉鎖後5年間保存しなければならない。

4 前項の土砂等管理台帳については、これに記載すべき事項を記録した電磁的記録の保存をもって、当該土砂等管理台帳の保存に代えることができる。この場合における前項及び第31条第4号の規定の適用については、当該電磁的記録は、当該土砂等管理台帳とみなす。

(平20条例21・一部改正)

(特定事業に係る土地所有者の義務)

第25条の2 土地の所有者は、第9条の2第1項(第12条第1項及び第20条の3第1項において準用する場合を含む。以下この条及び次条において同じ。)の同意をしようとするときは、当該同意に係る特定事業が一時的積特定事業以外の特定事業である場合にあっては当該特定事業が完了した後の土地の利用計画を踏まえて第10条第1項第1号から第10号までに掲げる事項を、当該特定事業が一時的積特定事業である場合にあっては同条第2項第1号から第6号までに掲げる事項を確認しなければならない。

2 第9条の2第1項の同意をした土地の所有者は、当該同意に係る特定事業による土壌の汚染及び土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するため、当該特定事業が行われている間、規則で定めるところにより、定期的に当該特定事業の施工の状況を把握しなければならない。

3 第9条の2第1項の同意をした土地の所有者は、当該同意に係る特定事業により土壌の汚染又は土砂等の崩落、飛散若しくは流出による災害が発生し、又はこれらのおそれがあることを知ったときは、直ちに、当該特定事業を行う者に対し当該特定事業の中止を求め、又は原状回復その他の必要な措置を講ずるとともに、その旨を市に通報しなければならない。

(平20条例21・追加)

(特定事業に係る土地所有者に対する措置命令)

第25条の3 市長は、特定事業に安全基準に適合しない土砂等が使用されていることを確認したときは、第7条第3項に定めるもののほか、当該特定事業に係る第9条の2第1項の同意をした土地の所有者に対し、当該特定事業に使用された土砂等(当該土砂等により安全基準に適合しないこととなった土砂等を含む。)の全部若しくは一部を撤去し、又は当該特定事業による土壌の汚染を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

2 市長は、特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するため緊急の必要があると認めるときは、第22条第1項に定めるもののほか、当該特定事業に係る第9条の2第1項の同意をした土地の所有者に対し、当該

特定事業に使用された土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の発生を防止するために必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

(平20条例21・追加)

(報告の徴収)

第26条 市長は、この条例の施行に必要な限度において、土砂等の埋立て等を行う者に対し、その業務に関し報告をさせることができる。

(立入検査)

第27条 市長は、この条例の施行に必要な限度において、当該職員に、土砂等の埋立て等を行う者の現場事務所、事業場その他その業務を行う場所に立ち入り、帳簿、書類その他の物件を検査させ、又は関係者に質問させることができる。この場合において、土砂等の埋立て等に安全基準に適合しない土砂等が使用されているおそれがあるときは、試験の用に供するのに必要な限度において当該土砂等は無償で採取させることができる。

- 2 前項の規定により当該職員が立ち入るときは、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があったときは、関係者に提示しなければならない。
- 3 第1項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

(平20条例21・一部改正)

(許可等に関する意見聴取)

第27条の2 市長は、第9条、第12条第1項又は第20条の3第1項の許可をしようとするときは、第11条第1項第1号オからケまでのいずれかに該当する事由(同号カからクまでのいずれかに該当する事由にあつては、同号オに係るものに限る。以下同じ。)の有無について、千葉県警察本部長の意見を聴くものとする。

- 2 市長は、第23条第1項の規定による処分をしようとするときは、第11条第1項第1号オからケまでのいずれかに該当する事由の有無について、千葉県警察本部長の意見を聴くことができる。

(平25条例16・追加)

(手数料)

第28条 第9条又は第12条第1項の許可を受けようとする者は、次に定めるところ

により、手数料を納めなければならない。

- (1) 第9条の許可に係る申請手数料（特定事業区域の面積が500平方メートル以上3,000平方メートル未満） 1件につき 20,000円
- (2) 第9条の許可に係る申請手数料（特定事業区域の面積が3,000平方メートル以上） 1件につき 48,000円
- (3) 第12条第1項の許可に係る申請手数料（第9条の許可に係る特定事業区域の面積が500平方メートル以上3,000平方メートル未満） 1件につき 10,000円
- (4) 第12条第1項の許可に係る申請手数料（第9条の許可に係る特定事業区域の面積が3,000平方メートル以上） 1件につき 28,000円

2 第20条の3第1項の許可を受けようとする者は、1件につき28,000円を手数料として納めなければならない。

（平20条例21・一部改正）

（委任）

第29条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

（罰則）

第30条 次の各号の一に該当する者は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

- (1) 第7条第2項若しくは第3項、第22条第1項若しくは第2項、第23条第1項、第24条第1項若しくは第2項又は第25条の3第1項若しくは第2項の規定による命令に違反した者
- (2) 第9条、第12条第1項又は第20条の3第1項の規定に違反して特定事業を行った者
- (3) 第13条の2の規定に違反して自己以外の者に特定事業を行わせた者

（平20条例21・一部改正）

第31条 次の各号の一に該当する者は、50万円以下の罰金に処する。

- (1) 第14条の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者
- (2) 第15条第1項又は第2項の規定に違反して、土砂等管理台帳を作成せず、又はこれらの規定に規定する事項を記載せず、若しくは虚偽の記載をした者

- (3) 第15条第3項、第16条第1項若しくは第2項又は第26条の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした者
 - (4) 第25条第3項の規定に違反して、土砂等管理台帳を保存しなかった者
 - (5) 第27条第1項の規定による立入検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、又は同項の規定による質問に対して答弁をせず、若しくは虚偽の答弁をした者
- (平20条例21・一部改正)

第32条 次の各号の一に該当する者は、30万円以下の罰金に処する。

- (1) 第12条第8項、第13条の3、第19条第3項、第20条第3項、第20条の2第3項又は第21条第2項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者
 - (2) 第18条第1項又は第2項の規定に違反して、標識を掲示せず、又は境界を明らかにする表示をしなかった者
 - (3) 第25条第1項の規定に違反して、書類又は図面の写しを保存しなかった者
- (平20条例21・一部改正)

(両罰規定)

第33条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、前3条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成14年6月1日から施行する。
(四街道市土砂等による土地の埋立て、盛土又はたい積行為規制条例の廃止)
- 2 四街道市土砂等による土地の埋立て、盛土又はたい積行為規制条例（昭和58年条例第35号。以下「旧条例」という。）は、廃止する。

(経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に旧条例第5条の規定による許可を受けて小規模埋立て等を行っている者は、第9条の規定にかかわらず、この条例の施行の日から起算して3月間は、なお従前の例により当該小規模埋立て等を行うことができる。その者がその期間内に同条の許可を申請した場合において、許可又は不許可の処分があるま

での間も、同様とする。

- 4 この条例の施行の際現に発せられている旧条例第11条及び第12条の規定による命令は、なお効力を有する。前項の期間経過の際現に旧条例第11条及び第12条の規定により発せられている命令についても、同様とする。
- 5 この条例の施行前にした行為、附則第3項の規定により従前の例によることとされる小規模埋立て等に係るこの条例の施行後にした行為及び前項の規定によりなお効力を有することとされる命令に違反した行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成20年条例第21号）

（施行期日）

- 1 この条例は、平成20年10月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この条例の施行の際現に改正前の四街道市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例（以下「改正前の条例」という。）第9条又は第12条第1項の規定による許可（以下「既許可」という。）を受けている者は、それぞれ改正後の四街道市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例（以下「改正後の条例」という。）第9条又は第12条第1項の規定による許可を受けた者とみなす。
- 3 改正後の条例第13条の3の規定は、この条例の施行の際現に既許可を受けている者で当該許可に係る土砂等の埋立て等に着手しているものについては、適用しない。
- 4 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に改正前の条例第21条第1項の規定により既許可を受けた者の地位を承継した者であって同条第2項の規定による届出をしていないものについては、改正後の条例第20条の3及び第21条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 改正後の条例第25条の2及び第25条の3の規定は、施行日前にされた既許可に係る特定事業については、適用しない。

附 則（平成24年条例第1号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成 25 年条例第 16 号）

この条例は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。